

## コロナショックで5期ぶりの赤字に見舞われた20年度を経て21年度は？メタルドゥ

2021.04.06 13:39

いいね！ 0

Tweet

大手レアメタルスクラップリサイクルの株式会社メタルドゥにとって2020年度は航空業界とともにコロナショックを直撃した会社のひとつである。不可抗力とはいえ、同社の強みであった航空機向けチタン、スーパーアロイが完全に裏目に出る格好になったが、すでに20年度の下半期から彼らの新しい挑戦ははじまっており、結果も残している。同社の山頼社長、塩田取締役役に聞いた。

### —やはり、厳しい20年度でしたか？

メタルドゥ山頼社長「特に20年度上半期（20年3月～8月）は最悪でしたね。当初、このコロナ問題が出たとき（20年2月）は、夏場にはおさまるかな、と今思えばかなり楽観的に考えておりましたが、まず4-6月は最悪なほどに落ち込み、特に弊社の得意としている輸出は5月から完全にSTOP。航空機向けのチタン、スーパーアロイはダメージを受けた。大口案件も延期になったりとこのうえなく厳しい環境が続きました。

国内でもステンレス原料向けが不振。ステンレスメーカーの減産もあり伸びない。スーパーアロイの輸出は5月から12月まで止まるという状況で非常に苦しいシーズンでした。

前も話しましたが、いままでのリーマンショック（2008年）、東日本大震災（2011年）、チャイナショック（2015年）よりも今回のダメージのほうが大きく、結果的に今期は5期ぶりに経常赤字に落ち込みました」

#### （関連記事）

- ・メタルドゥ山頼社長に聞く 前期総括、今期の見通し
- ・厳しい市場環境下でもチャレンジ続けるメタルドゥ

### —そうしたなかで光明も見えてきたとか？

「はい。実は下半期は外部環境が改善したこと、新たな商品への取り組みもうまくいっていること、で下半期修正計画に対して黒字化を達成できました」

### —新たな取り組みとは？

「貴金属スクラップへの取り組みです。これは以前から考えていたことですが、そもそも我々が扱ってきた電池スクラップの発生元でも貴金属系はあったので扱いやすいものでした」

### —時代の花形、となっている電池スクラップのほうはどうですか？

電池担当の塩田取締役「これは我々の営業努力が実り、かなり扱い量が増えました。どのくらいか？というのは企業秘密ではありますが基本的に電池スクラップの扱いは年々増え続けております。またチタンでも航空機向けは落ちましたが、フェロチタン向けはきわめて好調で、前期の最悪環境のなかでもチタンスクラップの扱いは増えました」

### —なるほどです。

山頼社長「航空機向けはちょっと、しばらく回復は難しいとみています。得意のスーパーアロイが眠っている間、これを補う意味で貴金属系には力を入れております」

### —レアメタル&プレシャスメタルのメタルドウ、ということになりますね？

「とはいえ、貴金属は自社ではすべて完結できませんので、貴金属精錬メーカーなどとアライアンスを組んで、その信頼できるパートナーとシナジー効果をあげていくべく推進しております」

塩田取締役「貴金属にかんしては当初目標の300%プラス（金額ベース）、になっております」

### —おお、すばらしいですね

山頼社長「あと、インドネシア事業もニッケル系スクラップに加えて他元素にも挑戦している過程です。」

### —これで21年度は乗り切れますね？

山頼社長「いや、もう絶対に赤字は出せませんから社員一同、気合入りますよ。新しい分野を開拓していき、再び得意のスーパーアロイが戻ってきたら望ましい展開です」

メタルドゥの今期43期は神風吹いてV字回復達成！となるのかどうか？気の早い話だが1年後の結果が待たれる。

(IRUNIVERSE/MIRUcom)